様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年 １０ 月 １５ 日現在

機関番号：２７４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０２２８

研究課題名（和文）『菊池風土記』の註釈的研究

研究課題名（英文）A study of annotating Kikuchi-Fudoki

研究代表者
鈴木　元（Suzuki, Hajime）

熊本県立大学・文学部・教授

研究者番号：４０３０５８３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の対象は、『菊池風土記』という江戸時代の地誌資料で、菊池地方の伝承・風俗・記録など多様な話題を盛り込んだ書物である。一般には、時代背景をふまえないと理解困難な箇所などが多く、そのため註釈に取り組んだ。研究期間内に巻一のみではあるが註釈を付し、これをネット公開により発信した。また、註釈に付随して、同書に収録されている「菊池万句発句」についても研究を進めた。これまで歴史学からも言及のある資料だが、もう一度テキストそのものから見直す必要があることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this study, I treated Kikuchi-Fudoki, a geographical description of the Kikuchi region in Kumamoto. This text, written in Edo era, contains a broad variety of topics: local legends, ethnic customs, historical recordings, and so on.In order to fully understand the details of content, knowledge of archaic words and historical backgrounds is needed. This is the reason why I decided to annotate this text.
I have finished annotating Vol.1 and then released it on the Internet within the funding period. Besides, in parallel with annotating Kikuchi-Fudoki, I studies Kikuchi-Manku-Hokku, a documentary literature on a kind of Japanese verses“Renga”,being included in Kikuchi-Fudoki. Although there have been some references about Kikuchi-Manku-Hokku by some historians, I made it clear, through this study, that it is needed to reconsider the text itself.

研究分野：日本文学

キーワード：菊池風土記　地誌　菊池万句

１．研究開始当初の背景

(1) 地方公立大学にあって、文学部の担う役割の中に、地域文化の研究はもはや欠くことのできない位置をしめている。そしてそのことは、学生への地域理解教育や研究成果の社会還元とも深く結びついている。また、地域との結びつきが、公立大学全般に求められるようになりつつある。では、本研究代表者のフィールドとする「日本古典文学」という専門を活かしながら、地方公立大学における文学部の現代的な意義が、広く承認を受けるような取り組みとしてどのようなことができるだろうか、そのような問題意識が背景にあった。

(2) 具体的に取り組む対象として『菊池風土記』というテキストを選んだのは、江戸時代の風俗、伝承、遺跡、文芸という様々な情報を伝える地誌資料が、古典文学研究の世界と親和性が高いこと、また、菊池という古くからの伝統をもつ土地にとって、伝承された記憶がアイデンティティーの形成に結びついていることが理由として挙げられる。同書は、戦前に肥後文献叢書に収録されることで、その存在そのものは広く知られていながら、江戸時代の書物という、その時代性の故に改めて読まれることの少なくなっていること、読もうにも読めない（理解の困難な）書物になりつつあることも考慮した。

２．研究の目的

上記の「背景」の記載に対応させて「目的」を規定すれば、次のようになる。

(1) 『菊池風土記』の伝本研究

『菊池風土記』については、広く利用されるテキストには肥後文献叢書所収のそれがあるものの、その底本がはっきりしない難点があった。そのため、どこまで信頼できる本文が提供されているのか、不明確であった。また活字テキストには、刊行された時期を考慮すればしかたのないことであるが、誤読もしくは誤植と思われる箇所が散見される。信頼できるテキストの選定と、それに基づいた本文の提供が第一の目的としてある。

(2) 註釈的読解

時代性を負ったテキストは、その時代性を考慮した説明を補いながら読まれなければならない。そのために、用語・事項・背景・史料・研究史をふまえながら註釈を付す作業が必須である。全巻に註釈を付すことは、時間的制約から無理があるが、研究期間の中で一定量の註釈を完成させることを目的として、研究をスタートさせた。また、註釈の提供により、古典的文献の読解になじみの人々へも、読めるテキストとして地域の歴史にかかわる資料を紹介することにもつながる。

３．研究の方法

(1) 『菊池風土記』テキストの収集。

熊本県立図書館の改修工事による休館等により、収集を終えていないテキストもあるが、本文比較のための諸本を収集。

(2) 『菊池風土記』本文の電子データ化

学生アルバイトを雇用し、本文のデータ化を進める。底本には熊本県立大学蔵一本を採用。入力を終えたところは、底本テキストをもって、研究代表者の責任において校正。

(3) 実地踏査

学生アルバイトを利用し、『菊池風土記』に記載される寺社、遺跡その他をリストアップし、日本歴史地名大系『熊本県の地名』などを参照させながら現在の菊池市地図に情報を落としていく。それらのデータを活用しながら、菊池市へ赴き現在の状況を確認して回った。なお、踏査にあたっては菊池市教育委員会の協力を得ることができた。

(4) 註釈

序文からはじめ、一語一語に註釈を付す作業を進めた。本研究期間内には、巻一に註を付すところまでに留まったが、詳細な註釈を付すことができた。また、註釈の進展にともない、参考資料の確認のため都立中央図書館などへも赴いた。

４．研究成果

(1) テキスト上の問題

当初からある程度予想されたことではあったが、土地にまつわる情報を羅列的に記述する地誌資料という書物の性格から、これらの書物は成立時の本文をそのままに受容されていくとは限らない。むしろ、人の手を経ることで新たな情報が追記され、時代ごとに内容を推移させていく傾向を有する。諸本を比較することで見えてきたのは、大がかりな本文変動は存在しないものの、受容の時期に合わせた最新の土地の情報が追記されたり、芸能における囃子のことばが、（おそらくははじめは省略形で記されていたと推測されるものが）省略なしの完全形に整形されたり、といった変更を被っている事例を確認できた。このような資料の在り方を見ると、原本遡源に重点をおく、通常の文学テキストの本文処理に、どこまでの価値を認めるべきか再検討を迫られるであろう。現存する個々のテキストを見直すことで、この『菊池風土記』という地誌資料が、菊池という土地において生きたテキストとして読まれ受容され続けた痕跡を、改めて確認するに至った。

(2) 『菊池万句発句』をめぐる問題

当然ながら、これまで註釈的な研究のまったくなかったテキストであることから、註釈をつけながら読み進めることで、いくつか興味深い事実を明らかにできた。そのうちの一つは、27 年度に口頭発表で紹介するが、文明

年間に菊池で行われた一万句連歌にかかわる資料『菊池万句発句』のテキストを、改めて原本調査することができたことに伴う成果である。いわゆる「高田氏保管文書」中の一本と、菊池市佐々家本とである。

実は既にこれらについては紹介があり、まったくの新出資料ではないのだが、諸般の事情から屈折した形で理解され伝わってきたらしいことが判明した。菊池万句そのものは、現在の熊本市にある藤崎宮に奉納されたと伝えられるものの、現存はせず、室町末期に城親賢によって発句のみを写しとった発句百句が伝わるのみ。かつて『熊本県史料』に高田氏保管文書中の一本が紹介され、それが親賢奥書と花押を有する伝本であったため、親賢自筆本と認定された気配があり、その後、この高田氏保管文書というテキストを問うことも、他の伝本の捜索もなされぬまま現在に至ることとなった。親賢自筆という認定が、原本に準ずる一次史料との権威となり、その後は、高田氏保管文書が再調査されることもなく、その行方についても話題となることがなくなり、一部の関係者にしか所在は知られていなかった。今回の調査により、この高田氏保管文書本が熊本県立美術館に寄託されていることをつきとめ、同館の協力を得て原本調査をすることができた。その結果、同本が江戸時代の転写本であり、花押そのものは模写に他ならないことが判明した。そして、これとは別に、註釈作業を進める中で、『菊池市史』を検する必要が生じ、そこで同市在住の佐々家に伝わるという、一見して江戸初期を下らぬ写本が紹介されているのを知ることとなった。これも菊池市による仲介の労を得て、原本調査をすることができた。市史という広く公開された書物の形で紹介されているにもかかわらず、学界には未知の資料となっていたようで、これまで『菊池市史』による紹介以外では、一切言及を見なかったものである。文学研究の世界においても、その意義どころか、存在そのものが認知されていなかったと言ってよい。

高田氏保管文書本も佐々家本も、改めて文献学的な批判のもとに紹介し、検討され直さなければならない。殊に、発句作者として名前を連ねる人々は、これまで歴史学からの言及においても、菊池の家臣団をなす国人層として、高田氏保管文書の記載を「史料」の扱いで信頼してきたが、高田氏保管文書本が二次的あるいは三次的な転写本である以上、人名に関しても諸本参照することが、当然求められる手続きである。その意味で、佐々本の存在意義は大きい。ちなみに、佐々本も親賢奥書とその花押とまでを模写した本である。また、この菊池万句の興行は、菊池氏の国人掌握の一つの姿として紹介されてきたが、その一名一名について厳密に検証した形跡はうかがえない。ところが、改めてこの万句に発句を寄せている面々を調べてみると、その顔ぶれはかつて「菊池古文書」として紹介された文書群の中の菊池家臣団交名とかかわり深いことが判明した。しかし、その関わりの在り方については、実は改めてかんがえてみなければならない問題があることもまた見えてきた。口頭発表を経て、論文化する予定である。

ともあれ、『菊池万句発句』の追究は、文学・史学にまたがる文献テキストの問題を、改めて顕著に浮かび上がらせる結果となった。

(3) 菊池風土記テキストの公刊

かねてより地域文化研究の様々な成果を熊本文化研究叢書として、研究代表者の所属学部学科を基礎に公表してきた。本研究の成果である『菊池風土記』の有力伝本の紹介を、この叢書の一冊として行った。紹介しているのは、熊本県立大学蔵の一本である。これは何年か前に熊本市内の古書肆から購入したものであるが、江戸時代後期の菊池の名士による書写本である。経費の関係から七巻三冊本のうちの第一冊（巻一・巻二）のみを影印にし、解説を付して刊行した。残り二冊分についても、後日、影印にして刊行の予定である。

(4) ホームページ「地域文化研究の部屋」の開設と「菊池風土記巻一註釈」の発信

本研究の「背景」で触れたように、本研究は学術的な知見を基礎になされたものではあるが、その成果は可能な限り県民その他に開かれたものであるべきと考えた。研究成果は、通常であれば紀要等の媒体を用いて発表するところではあろうが、それでは研究者のみを対象とした閉鎖的な還元にしかならない。そこで、あえて紙媒体での発表をとばして直接ネットでの公開という手段を用いることとした。

まずは業者に依頼して、新たに本研究の研究代表者の個人ホームページを立ち上げることとした（http://suzukiha-lab.com/）。トップページには、「地域文化研究」の成果公開を主たる目的とし、加えて地域の文化施設等との連携による各種事業の発信というホームページ趣旨を掲げ、併せて「研究室紹介」「最新の成果」「地域との連携事業」という 3 つのコンテンツから構成した。「研究室紹介」では、これまでの本研究代表者の主たる研究テーマと、研究代表者が「地域文化研究」へ取り組むこととなった背景、およびその研究実績を紹介した。続いて、「最新の成果」では科学研究費補助金による研究の成果ということで、『菊池風土記』の研究を紹介し、ここに「菊池風土記巻一註釈」として研究成果を pdf により公開している。今後、巻二以下の本文を順次公開していき、それと並行して巻二の註釈を進める予定である。註釈は完成とともに、やはり pdf により公開することとする。また「地域との連携事業」では、現在取り組んでいる、周辺自治体等からの依

頼事業、あるいは大学からの発議で行っている自治体・文化施設との連携事業を紹介している。これは、「菊池風土記の註釈的研究」の遂行にあたって、改めて自治体・教育委員会・博物館等の文化施設との連携が重要であることを再認識させられたからである。

最後に註釈作業のその先の展開として、将来的にはより広い読者を想定して、口語訳を添えることなども考えていく必要があるだろう。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2 件）

① 鈴木元、張行する、文彩、査読無、第 11 号、2015、pp.1-9
② 鈴木元、かおる――香と連歌、文彩、査読無、第 10 号、2014、pp.11-20

〔学会発表〕（計　0 件）

〔図書〕（計　5 件）

① 鈴木元、勉誠出版、室町連環――中世日本の「知」と空間、2014、402
② 鈴木元、熊本県立大学日本語日本文学研究室、熊本文化研究叢書第 9 輯菊池風土記１、2014、98
③ 鈴木元他、熊本日日新聞社、蘇峰の時代、2013、pp.164-182
④ 鈴木元、新典社、つける――連歌作法閑談、2012、157
⑤ 鈴木元他、竹林舎、中世詩歌の本質と連関、2012、pp.536-555

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

http://suzukiha-lab.com/

６．研究組織

(1)研究代表者

鈴木　元（SUZUKI, Hajime）
熊本県立大学文学部・教授
研究者番号：40305834

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：